

2022 年度 北海道シニアサッカー連盟 第 2 回常任理事会 議事録

1. 日 時 2022 年 12 月 10 日 (土) 15:30~17:30
2. 会 場 公益財団法人北海道サッカー協会 3F 会議室 (札幌市豊平区水車町 5 丁目 5-41)
3. 出席者 21 名/23 名 (会場参加 16 名、web 参加 5 名、) +オブザーバー 6 名の合計 27 名
【会場出席】松本会場、工藤・三浦・小笠原副会長、佐藤理事長、伊東・二川・小坂副理事長、
水落・三国・小林・佐藤晃・眞木・松本真・松本健・吉田常任理事の 16 名
【web 出席】紺野・小田中・亀山・飯田・荒川常任理事の 5 名
【欠席】西川 EA、村山 EA
【オブザーバー】(会場出席) 船田 HKFA 副会長、(web 出席) 神谷・橋本・高橋・三ヶ山・木村理事の 6 名

4. 会長挨拶

- ・松本会長より挨拶
- ・船田 HKFA 副会長より挨拶

5. 議 題

5.1 報告事項

- 5.1.1 2022 年度第 1 回常任理事会議事録(2022 年 6 月 4 日実施)【資料 2~5 頁】・・・佐藤理事長
・各自確認のこと。
- 5.1.2 2022 年度 JFA シニア種登録及びシニアサッカー連盟登録状況【資料 6~7 頁】・・・佐藤理事長
・2022 年度登録者数は 118 チーム、2,518 名。
・資料訂正:7 頁 93 番「FC オールジャパン 60」の登録部門を「60」から「50」に訂正
- 5.1.3 2022 年度年間事業計画【資料 8 頁】・・・佐藤理事長
・今年度は順調に事業をこなすことができ、残すは来年 3 月の全道シニアフットサル大会のみ。
- 5.1.4 2022 年度シニア種大会結果一覧【資料 9 頁】・・・佐藤理事長
・直近の大会では、11 月の全国シニア 40 大会(静岡県)にオッサンドーレ札幌 40 と FCK ZIEX が出場。両チームとも予選リーグで敗退。同じく 11 月のねんりんピック神奈川 2022(60 部門)に都道府県枠(北海道)として釧路四十雀 60 サッカークラブ、政令指定都市枠(札幌市)としての北海道シニアサッカー連盟選抜が会場。釧路四十雀 60 サッカークラブは 1 勝 1 敗 1 分の 3 位/4 チーム、北海道シニア連盟選抜は 0 勝 3 敗の 4 位/4 チームだった。また、同じく 11 月にライフスポーツ(50 歳以上)サッカー大会が広島県で開催され、旭川シニア 50(全道シニア 50 開催地)が会場。予選リーグ 1 勝 1 敗、順位決定 2 位リーグ 1 勝 1 敗。
・ねんりんピックに連盟選抜チームの一員として参加した三国常任理事、並びにライフスポーツサッカー大会に参加した旭川シニア 50 の松本常任理事から、それぞれ試合結果や大会の感想などについて報告があった。

5.1.5 2022 年度シニア連盟主管事業報告 佐藤理事長

- (1) 5/3(月祝)～4(火祝) 全道シニア 8 人制サッカー大会 (東雁来公園) 【資料 10～11 頁】
- (2) 7/2(土)～3(日) シニア 8 ツアー (中標津) 【資料なし】
- (3) 7/16(土)～18(月祝) 全道シニア 40 大会(苫小牧市) 【資料 12 頁】
- (4) 7/27(水)・28(木) 全道シニア 70 大会(札幌市) 運営：シニア連盟(道央地区) 【資料 13 頁】
- (5) 8/27(土)・28(日) 北海道シニアオープン大会(空知地区夕張・栗山) 【資料 14～15 頁】
- (6) 9/17(土)～19(月祝) 全道シニア 60 大会(釧路市) 【資料 16 頁】
- (7) 9/23(金祝)～25(日) 全道シニア 50 大会(士別市) 【資料 17 頁】

・シニアエイトツアーはコロナで中止となったが、その他の大会は予定通り実施でき、結果を添付資料のとおり。

(8) 女子委員会(エイトリーグ)への協力【資料なし】 伊東副理事長/事務局長

・実施した 3 回の稼働状況は以下のとおり。

- ①5/28 (土) SSAP 人工芝(眞木・飯田・伊東)、②6/18 (土) SSAP 人工芝 (工藤・山浦・伊東)、
- ③7/16 東雁来西(工藤・松本健・伊東)

・シニア連盟からは審判などの運営協力をいただいた。大会は、予定していた 3 回を無事終了。稚内、旭川、函館からの参加チームもあり、和やかな雰囲気の中で行われた。なお、女子委員会からシニア連盟への感謝とともに、引き続きの協力について依頼があった。

5.1.6 2022 年度各地区活動報告

(1) 第 7 回北海道 60 スーパーリーグ (土日) 【資料 18 頁】 水落常任理事

・70 部門は 3 チーム、60 部門は 11 チームで余地どおり実施できた。次年度は 70 部門がもう 1 チーム増える可能性がある。

(2) 第 17 回道央シニア 6570&L サッカーリーグ (水曜) 【資料 19 頁】 三国常任理事

・土日リーグがメインだが、年齢が上がるとともにサッカー需要も多くなり水曜も実施。70 部門は単独チームでは人数が揃わない混成チームも含めて 4 チーム。65 歳以上・レディース部門は 39 歳以上の女子単独チーム 1 チームを含め 11 チームだが、女子単独チーム以外のチームにはピッチ内 3 名まで女子の出場を可能としており、女子も交えて親睦を深めながらリーグ戦を楽しんでいる。

(3) 道央地区 40/50 【資料 20～23 頁】 小坂副理事長

・40 リーグは全部で 26 チームとなり、今年は 1 部 10 チーム、2 部を 8 チーム×2 に分けて開催。例年は 10 節だが、今年はチーム数とグラウンド数の関係から 11 節で行った。来年も既に新規チームの問い合わせが 3 件来ており、増加見込み。会場については、来年から千歳青葉のグラウンド修復が終了し 2 面使えるようになる。また、千歳地区では社会人チームの BIG 1 が解散したので、その枠もカウントすると 2 節実施の可能性がある。

・眞木常任理事から、シニアサッカー練習会 (毎週火曜日 21 時から盤溪サッカー場で開催) について報告。参加者を募る段階で LINE 公式アカウントだと参加人数が参加者に見えないという意見があり、今後改善を検討していく予定。また、どういことをやっているのかという問い合わせが多いので、練習風景を動画等の配信することも検討していく旨の説明があった。この練習会は、年代を超えた交流などを通じて、生涯スポーツに繋げていくことを目的に行っているため、今後も各チームに継続してアナウンスをしていただきたいとの依頼があった。

(4) 道北地区 【資料 24～25 頁】 松本健常任理事

・コロナの影響もなく、リーグ戦は予定通り実施。

- ・今年度、士別市のグラウンドが全道 50 大会の会場のため、士別市に補正予算を組んでもらい、春先から芝のメンテナンスを行っていただいた。その間グラウンドが使えなかったが、代わり剣淵町桜丘のグラウンドを無料で借りることができ、何とか道北リーグ全日程を無事終了した。リーグ戦終了後、町役場にお礼をした際、来年度もそのグラウンド使用の許可を頂いたので、次年度は 2 会場開催も検討し、社会人チームも交えた交流戦を多く組みたいと考えている。

(5) 道南地区【資料 26 頁】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・紺野常任理事

- ・5/15 から 10/15 までの 11 節を実施し、40 部門 9 チーム、50 部門 5 チーム、60 部門 4 チームが参加した。来年度、室蘭地区で 70 部門のチームができる予定なので、今年はモデル的に函館と苫小牧の 70 部門チームに声を掛けて交流戦を計画した。しかしながら、函館～苫小牧の移動距離の面などで 70 部門のみの実施が難しく、オーバー65 のメンバーシフトし交流戦を実施した。

(6) 道東地区【資料 27～37 頁】・・ 松本常任理事（十勝）、木村理事（釧路）、三ヶ山理事（オホーツク）

- ・十勝地区では 40・50・60 のリーグのほかに、現在、4 チームでエンジョイリーグ（EL リーグ）を設けている。EL リーグはシニアの普及のため、チーム数の増加、歴史あるチームの存続、楽しくサッカーをしたいチームの存続を目的として実施した（全道大会には繋がらない）。今後はチーム数の問題や各チームの要望を聞きながら、引き続き楽しくサッカーができる環境を作っていききたい。
- ・釧路地区は 40 部門のみ（50・60 は十勝に入っている）だが、来年度あたりからはホーム&アウェイ方式の 2 回戦総当たりでやりたい。
- ・オホーツクは 40 部門のみだが、2～3 年後には 50 部門も開催していききたい。それに向けたフェスティバルを 2 回開催した。
- ・根室地区は資料のとおり、7/10～9/18 までリーグ戦を実施し、女子チーム、中高生チームとの交流戦も組み込んだ。コロナの影響で管内チームのみの参加に限定したが、9/3～4 にはかに三昧サッカーフェスティバルを実施した。

(7) フットサル（活動予定）【道央 40/50：資料 38 頁、道央 60/65/70/女子：資料なし】・・小林常任理事

- ・道央 40-50 のチオスリーグは、11/3 から既に市内各区体育館で開始しており、3/19 までの 8 日間を予定。昨年度はコロナの関係もありフルピッチの 1 面開催で行ったが、今年度はコロナ前と同様の 2 面開催も組み込んでいる。
- ・60 部門以上は、フットサルではなくウィンターサッカーとしてイーワン会場で女子も交えて楽しく実施中。水曜日は 70 部門 3 チームのリーグ戦と 65 部門 6 チーム（各チームに女子も参加）のリーグ戦。日曜日は 60 部門 10 チーム（各チームに女子も参加のほか、女子単独の 2 チーム含む）による前期と後期に分けたリーグ戦。（工藤副会長より報告）

5. 1. 7 2022 年度全国大会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・司会の工藤副会長

- (1) J F A 全日本 O-70 サッカー大会（6/18-20 愛媛県）【資料 39 頁】
- (2) J F A 全日本 O-60 サッカー大会（6/18-20 愛媛県）【資料 40 頁】
- (3) J F A 全日本 O-50 サッカー大会（6/25-27 千葉県市原市）【資料 41 頁】
- (4) J F A 全日本 O-40 サッカー大会（11/19-21 静岡県藤枝市）【資料 42 頁】
- (5) ねんりんピック神奈川 2002（11/12-11/14 神奈川県）【資料 43～45 頁】

・上記（1）～（6）の結果は資料のとおり。

(6) 2022 ライフスポーツ（50 歳以上）（11/18-11/20 広島県）【資料なし】・・松本健常任理事

- ・旭川シニア 50FC（全道シニア 50 開催地）が参加。

- ・全9チームの参加で3チームずつのリーグ戦。予選リーグは1勝1敗で2位/3チーム、順位決定2位リーグは1勝1敗で2位/3チーム。

- ・最終日には、中国地区サッカー協会専務理事と金田喜稔氏に挨拶する機会があり、金田氏には昨年度の大人のサッカー教室のお礼も兼ねて話すことができた。また、全参加チームにエイトツアーの宣伝も行った。

- ・大変良い環境でサッカーをすることができて、次回またこのような機会があれば参加したい。

(7) 11人マスターズ (50歳以上) 御殿場大会【資料なし】・・・・・・・・・・二川副理事長

- ・北海道オッサンドーレ札幌50が参加し、予選リーグは2勝0敗で1位/3チーム、1位トーナメントは2敗で4位/4チーム(準決勝と敗者同士の試合で敗戦)

- ・JFAの大会ではなく交流を目的としたもので、11月下旬にオッサンドーレ札幌50が参加。結果は17チーム中4位。40や60もこのような大会が開催されているので、北海道のチームもぜひ参加し、全国のチームと対戦することでレベルを上げていければいいのではないかと。

(8) 四都市交流サッカー大会(札幌、八戸、宮城、神奈川)【資料46~47頁】・・・・・・・・・・工藤副会長

- ・札幌四十雀の取組の紹介になるが、4都市の四十雀チームが持ち回りで開催しており、今年は札幌が当番。

- ・今年度は宮城県が参加できなかったため、シニア連盟に声がかかり、ねんりんピック参加のシニア連盟選抜が参加。次年度以降はどうなるかは不明(松本会長補足)

5.1.8 JFA訪問会議【資料48頁】・・・・・・・・・・船田HKFA副会長

- ・10月29日にJFA田島会長、宮本恒靖会長代理、湯川事務総長などが来道。HKFAの会長、副会長、専務理事、事務局、女子委員会の理事などと意見交換を行った。道協会の中でもシニアの登録者数が増えている状況などシニア委員会の活動を報告し、それに対してJFAから感謝の言葉があった。また、JFAの取組として、千葉県で開催した高校サッカー部OBフェスティバル(40・50・60の各8チーム、約100人が参加)について紹介があった。

5.1.9 JFAシニア大会部会(2022年11月11日実施)【資料49~69頁】・・・・・・・・・・佐藤理事長

- ・HKFAシニア委員長として佐藤理事長が参加(web開催なので二川副理事長が非公式に同席)。

- ・2023年度の全国大会開催時期について、0-50は例年同様6月の予定だが、開催地の都合により0-40が9月末、0-60/70が5月中旬と例年より1ヶ月程度前倒しの予定。関西地区の0-40及び0-60/70予選実施時期が例年上記前倒し日程より遅いため、現在調整依頼中で、最終的には2月に予定の次回JFAシニア大会部会で決定する。北海道としては、0-60/70の5月中旬開催だと、外サッカーが開幕する時期なので準備期間の確保が難しいことをJFAに申し入れる。

- ・全国大会の出場全16チームの内訳は(0-70のみ全12チーム)、9地域サッカー協会から各1チーム、前年度登録チーム数の比例配分(ドント方式)により登録数の多い地域に割増(0-40/50は3チーム、0-60/70は1チーム)、開催地枠1チーム、各地域順番に割り当てられる普及枠(0-40/50は3チーム、0-60は5チーム、0-70は1チーム)である。このうち、前年度登録チーム数の比例配分による登録数の多い地域の割増については、シニア登録全チーム数を母数として各カテゴリーに展開しているが、本来は各カテゴリーの登録チーム数で算出すべきである。関東地区が多くなる結果は変わらないかもしれないが、各カテゴリー別の登録チーム数での試算をJFAに申し入れる予定。

- ・50部門の軽量球の問題(雨を含むと通常球より重たくなる)を議題として取り上げてもらった。0-50で使用している軽量球は、風や雨の影響を受けやすく、ロングキックやシュート時には失速する。特に雨を含むと通常球よりも重たくなり、北海道では雨天時にクレームが頻発していることを報告。

軽量球を使用した経緯は不明だが、北海道、北信越、関東が通常球に戻すことを推奨し、他の県も反対意見はなく、千葉県では既に県リーグで通常級を使用し好評。2月予定の全国シニア大会部会で、使用球の変更や移行時期を最終決定するが、北海道は次年度からの適用を提案。

- ・全国的に0-70大会では、スライディングタックルとショルダーチャージを禁止する特別ルールを適用しているが、北海道では適用しておらず（認識がなかった？）、特に問題ないことを報告。各地区にアンケートをとり、状況や選手の意向を把握した上で、次回2月予定の全国シニア大会部会で決定。
- ・昨年度、北海道でも金田喜稔さんの大人のサッカークリニックを実施したが、JFA シニアサッカークリニックとして、前田氏、永島氏、小村氏など元日本代表メンバーを講師に全国で実施し、好評とのこと。

5.1.10 JFA グラスルーツ推進・賛同パートナーカンファレンス 2022【資料 70～87 頁】・佐藤理事長

- ・12/7【第1日】のカンファレンスに佐藤理事長が参加。
- ・千葉県柏市でシニアリーグ設立から15年経過した今日にいたるまでの活動や今後の展望についての話題があり興味深かった。

5.2 協議事項

5.2.1 2022年度HKFAシニア委員会報告(2021年12月10日実施)

(1) 全道シニア40・50・60サッカー大会普及枠について【資料 88～89 頁】・二川副理事長

- ・40部門、50部門、60部門の各地区からの全道出場枠は、各地区のカテゴリー別の登録チーム数により比例配分で割当てる。
- ・次年度の普及枠は、40部門は道南地区と道北地区、50部門は道東地区と道北地区の順番となる。
- ・次年度の開催地枠は、40部門が道東地区（十勝）、50部門が道央地区（小樽）。
- ・60部門は、チーム数が全18チームと少ないので、道央地区を除いて全登録チームが出場できる。このため、普及枠及開催地枠はなく、道央地区のみ出場チームを全11チームから9チームに別途選考する。
- ・全道大会の普及枠について、HKFAシニア委員会案で了解を得た。

(2) 各事業の開催要項について【資料 90 頁】・二川副理事長

- ・全道40は大会名を、「全道シニア40サッカー大会」から「全道0-40サッカー大会に変更」（道協会の事業名にあわせるため）。会場も資料では帯広の森球技場になっているが、中札内に変更になる。
- ・全道50は競技方法の中で、決勝ラウンドの試合時間はこれまで前後半20分だったが、2月の全国部会で25分になる可能性がある。
- ・北海道シニア8ツアー大会は、7/8～7/9になる可能性が高い。
- ・各事業の開催要項について、HKFAシニア委員会案で了解を得た。

(3) 主管大会の地区希望調査について【資料 91～92 頁】・二川副理事長

- ・2023年度の主管はほぼ決定しているが（正式にはHKFAから各地区に主管依頼）、2024及び2025年度は各地区担当HKFAシニア委員に調整依頼している。
- ・2024年の全道シニア0-60大会は、道北（士別市）の予定。
- ・主管予定について、HKFAシニア委員会案で了解を得た。

(4) 2022年度全道シニアフットサル(3/4(土)～5(日)滝川市)開催要項(案)【資料 93～98 頁】・佐藤理事長

- ・会場は2面で開催とし、随行者（人数未定）はコロナ対策を行った上で入館を認める（有観客）。

- ・競技者の数及びベンチ入り人数は、登録者 20 全員が出場できるように改善した経緯を踏まえ、事務局案（競技者 5 名、ベンチ入り人数 19（交代要員 15 名、役員 4 名））とする。
- ・開催地の北空知サッカー協会事務局案に松本シニア連盟会長と野呂 HKFA フットサル委員長が追記した開催要項案について、HKFA シニア委員会案で了解を得た。

5.2.2 2022 年度決算見込み【99～104 頁】・・・・・・・・・・伊東副理事長/事務局長 【収入について】

- ・収入は 118 チームの連盟登録費 2,35,000 円のほか、HKFA からの交付金 439,700 円と事業補助費 170,000 円の合計 4,595,282 円。

【支出について】

- ・支出のうち、連盟主管事業については各地区開催の全道大会は各地区の努力により赤字が減少。
- ・各地区リーグ・事業への補助金では、道北リーグ（旭川・道北）と北海道スーパー60（水曜）がチーム数増加のため、10,000 円ずつ補助金を増やした。また、オホーツク地区シニアサッカーフェスティバルも今年度から新規で追加し、30,000 円を支出している。フットサルリーグについても予算を確保しているので、各地区でリーグ戦等があれば相談して欲しい。
- ・事務費の HP 作成費は 83,050 円で決算済。会議費の会場費は今後も変動する可能性が高い。
- ・HKFA から頂いた交付金につて、今までは予算の中に組込み均等に処理していたが、昨年度から HKFA に決算報告をあげなければならない。昨年は連盟ピステ等に使用したが、今年度は連盟プリンターのほか、今年度中に経費は発生予定。

【記念事業費積立金】

- ・記念事業積立金会計の支出の部（事業費）については、20 周年の式典を中止し、記念誌・表彰盾・記念品進呈に充てている。

【連盟収支】

- ・繰越金については多くなる傾向であったが、昨年と今年は適切に使用して減少傾向にある。

【全道大会】

- ・各地区に主管依頼する事が多いが、理学療法士と連盟レプリカについて考え方に相違がある地区もあるので、次年度は事前に調整する必要がある。

5.2.3 2023 年度事業計画案【資料 105 頁】・・・・・・・・・・佐藤理事長

- ・現時点の最新情報を反映しているので、各自確認のこと。

5.3 その他

- ・連盟 HP 新規チーム紹介原稿【資料なし】・・・・・・・・・・佐藤理事長
 - ・道央地区は年内までに提出予定（小坂副理事長）。
- ・シニア連盟名刺【資料 106 頁】・・・・・・・・・・佐藤理事長
 - ・名刺ひな形を作成したので、希望者は必要事項を記入し、佐藤理事長、伊東事務局長、小田中常任理事に申請すること。
- ・勉強会の進捗状況【資料 107～109 頁】・・・・・・・・・・佐藤理事長
 - ・10 年後のシニアサッカー人口の推移予測について、小林常任理事より中間作成状況の説明を行った。減少率は国立社会保障・人口問題研究所の北海道の年齢別人口推計値をベースに算出しているが、北海道のシニアサッカー人口は未来永劫増加し続けるわけではない。
 - ・各勉強会の進捗状況が悪いことは把握しているので、2 月の次回常任理事会までには各勉強会は開

催して欲しい。

- ・各勉強会の座長は、いつもまでに何をやる等、まずは検討スケジュール案を作成すること。
- ・女子との連携については、ヒアリングメンバーを選定し日程調整中。
- ・ **ホームページ広告規定（バナー）について【資料 110～116 頁】**・・・・・・・・・・佐藤理事長
 - ・シニア連盟のHPを見て、ネット通販のスポーツ会社から自社の広告をシニア連盟 HP に載せてほしいとの問い合わせがあったが、即答はせずにシニア連盟内で協議して返答する旨の返信を行った。
 - ・バナー広告に関する資料を配付するので一度目を通して頂きたい。この件は継続案件として改めて協議する。
- ・ **シニア連盟法人化ほか【資料 117～121 頁】**・・・・・・・・・・松本会長
 - ・シニアサッカー人口は増加し続けるわけではないので、将来登録数が減ると連盟事業が疎かになる懸念がある。また、事業が多くなると通常業務をこなしながら対応している連盟役員の負担が増えることも懸念される。このため、次世代のために、連盟法人化や事務所設置の可能性なども検討をしておきたい(法人化は最低 2 名くらいの専従職員が必要なので、専従職員による事務作業が可能)。
 - ・現在、道協会の下部組織では、札幌地区協会、十勝地区協会、道フットサル連盟等が一般社団法人化し事務所を構えて事業展開している。その辺の動向を見て、何がシニア連盟にとっていいのかを検討したいというのが提案の趣旨。
 - ・事務所は松本会長宅の一室の可能性も考えており、最低 2 名くらいの社員を置き事務を行う。事業展開については今後の検討になるが、札幌市に芝のグラウンドの整備などを働きかけていきたい。会長自身が 4 月からフリーになるので提案してみたが、デメリットが多いのであれば無理してやる必要はない。
 - ・継続案件として協議していく（佐藤理事長）。
- ・ **次回常任理事会及び理事総会【資料 122 頁】**・・・・・・・・・・佐藤理事長
 - ・次回常任理事会は令和 5 年 2 月 18 日（土）、次回理事総会は令和 5 年 4 月 15 日（土）を現時点の候補日とする。

※最後に三浦副会長より閉会の挨拶

以上